愛媛県内の出土木製遺物の用材傾向について

亀井英希

一　はじめに

遺跡から出土する木製遺物の樹種の調査により、時代や地域、遺物の用途に応じた木材利用つまり用材利用の特徴を知ることができる。それにより、さらに、当時の文化や技術、自然環境との関わりが明らかになりつつある。[1] しかし、日本列島全域を対象としたような大規模な集成においては、どうしても資料の多い地域の検討が優先され、個々の地域については大まかにしか把握されない現状がある。そこで、本稿では、個別の樹種同定の報告が若干行われつつあるものの、[2] いまだデータの集成が行われていない県内の遺跡から出土した木製遺物及びその用材について発掘調査報告書等[3]より調査し、時期などによる用材の使用状況の相違を明らかにしたいと思う。

愛媛県内で木製品が出土していると思われる遺跡は、およそ七〇を数えるが、そのうち、今回は出土遺構と年代が明らかになった四一遺跡の四六七点の木製遺物を対象に、樹種、器種（用途）、時期別にデータの整理を行った。それによると、樹種では針葉樹が、スギ科五三点、ヒノキ科九六点（ヒノキ属九五点、ネズコ属一点）、マツ科五一点（マツ属四一点、モミ属八点、ツガ属二点）、カヤ属九点、コウヤマキ四点、イヌガヤ二点、イヌマキ一点。広葉樹が、ブナ科一四六点（コナラ亜属九点、アカガシ亜属一一四点、シイノキ属一七点、クリ属五点、ブナ属一点）、クスノキ科三一点（クスノキ属二五点、タブノキ属三点、シロダモ属三点）、ツバキ科一九点（ツバキ属九点、サカキ属八点、ヒサカキ属二点）、クワ（ヤマグワ）一〇点、サクラ属八点、タケ五点、モチノキ属四点、アオキ四点、ヤマウルシ三点、カバノキ科二点（アサダ属一点、クマシデ属一点）、ウツギ属二点、ツゲ二点、ニレ属二点、キリ二点、ヤナギ属二点、タイミンタチバナ一点、ケンポナシ一点、ムラサキシキブ一点、シャシャンボ一点、センダン一点、ノグルミ一点、アオギリ一点、ムクロジ一点、アワブキ属一点であった。（表参照）

二　器種による使用樹種について

県内の遺跡から出土した木製遺物のうち、二〇％以上を占めているのが、ブナ科の樹種であった。次いで、スギ科、ヒノキ科、マツ科であった。そこで、今回は分類の基準として、針葉樹と広葉樹を分け、針葉樹は、スギ科、ヒノキ科、マツ科とその他の科、広葉樹はブナ科とその他の科を分ける方法を採用した。さらに、それらを建築（土木）用材、農工具、祭祀具等の用途別に分類した。

以下、その表にしたがって、使用樹種ごとの用途を概観していくと次のようになる。なお、（　）内には出土遺跡名を記した。

①スギ科は、弥生中期から古墳後期にかけて、板材（桑原5次）として利用されはじめ、八世紀には建築部品（久米窪田森元3次）、叩き板や木簡類（久米窪田Ⅱ）として使用されている。中世では、板材（古照8次）や角材、柱類、部品（太田城跡）のほか、下駄（八町1号、太田城跡）、曲物（八町1号、船ケ谷3次、太田城跡）に使用されている。スギは軽くて軟らかいため、割裂や加工がしやすい一方、群生した場合、まっすぐな太い材となるため、曲物等の薄く板状を呈するものに用いられる他、建築材としての条件も満たしている。また、太田城跡出土のものが多いが、これは、その地域の植生や立地条件と関わりがあると思われる。

②ヒノキ科は、弥生時代から古墳時代にかけては、板材（船ケ谷4次、桑原5次、古照8次）、杭材（船ケ谷4次）等の建築（土木）用材のほか、刳

物の古墳前期の槽形木製品（多々羅）や、紡織具の木錘（桑原5次、来住廃寺18次）として利用されている。また、久米窪田森元3次では七世紀中頃から八世紀頃の部品、下駄、曲物、匙形、斎串が見つかっている。ほかに斎串や人形代といった祭祀具、木簡類は二〇点ほど見つかっているが、いずれもヒノキ製である。その他、古代から中世にかけては柱材（古照8次）、刳物の槽形木製品（石井国友2次）、曲物（八町1号、船ヶ谷3次、太田城跡）、しゃもじ形、置物の脚（いずれも太田城跡）に使われている。ヒノキもスギと同様に割裂や加工が容易なため、斎串等の薄いものに使用される一方、肌目が緻密で強靱であり、耐湿性も高いため、刳物や木錘等に用いられたと思われる。なお、同じヒノキ科のクロベが弥生中期の阿方遺跡から出土している。

③コウヤマキは、弥生時代から古墳時代にかけて板材や杭（いずれも船ヶ谷4次）、棒状加工材（桑原5次）等に用いられている。

④モミ属は、松山平野において、弥生中期から古墳後期にかけて板材（桑原5次）や杭材（船ヶ谷2次）として使用されるとともに、八世紀頃の用途不明品が出土している（久米窪田森元3次）。また、今治平野では、古墳後期の板戸と柱類（いずれも中寺州尾）、一四世紀の井戸枠（八町1号）が見つかっている。モミもスギと同様に、材は軟らかいため加工が容易であるのが特徴だが、耐久性は低く、狂いも生じやすい。

⑤マツ属は、弥生中期から古墳後期にかけて杭（桑原5次、船ヶ谷4次）、礎板（船ヶ谷2次）などに使用されている。古代から中世にかけても、杭や柱材として多用されている（久米窪田森元3次ほか）。また、久米窪田Ⅱ遺跡からはアカマツ製の奈良時代のあて道具が見つかっている。自然木では、弥生後期のアカマツ（中村松田）、古墳前期の炭化材（多々羅）、古墳の炭化材（瀬戸風峠5号墳）、八世紀頃の自然木（北梅本悪社谷2次）、一四～一五世紀の炭化材（岩崎）が見つかっている。マツ属は、重硬で水湿によく耐えるので建築・土木に適した材である。また、樹脂を多く含み火力が強く火もちがよく、現在においても窯業に好んで用いられる。多々羅遺跡の土器廃棄遺構や製塩炉から出土したり、北梅本悪社谷遺跡の周辺で八世紀の窯跡が確認されていたりすることは、古墳時代以降、マツ材を意識的に燃料材として使用したことが想定される。

⑥カヤについては、古墳時代の柱類（船ヶ谷4次）のほか、刳物（矢田八反坪）や弓（阿方）に使用されている。弓の材には他にイヌガヤやイヌマキが使われている。これらは柔軟性にとみ、耐久性、耐湿性があること、また、あまり他の製品の使用例がないことから、意識的に弓の材料として選択して使用したと思われる。

⑦クリは、縄文晩期の炭化材（松山大学構内5次）が見つかっており、弥生時代の建築部材（阿方）や古墳時代の加工材（桑原5次）、および近世の杭材（八町1号）として使用されている。クリの材は非常に腐りにくいので、主に建築材として用いられたのであろう。

⑧コナラ亜属コナラ節は、弥生後期～古墳中期の杭材（古照8次）。古墳後期の柱（船ヶ谷4次）。一二世紀後半～一三世紀前半の杭（古照8次）。クヌギ節は、縄文後期～古墳後期の竪杵（矢田八反坪）や古墳の炭化材（瀬戸風峠4号墳）が見つかっている。クヌギ節にはクヌギ、アベマキなどがあり、材は重硬で弾力にとみ、良質の木炭にもなる。

⑨アカガシ亜属は、特に農工具に多く用いられている。縄文後期から古墳後期にかけては、柄（矢田八反坪ほか）、竪杵（阿方ほか）、弓（矢田八反坪）、鋤・鍬類（松木ほか）、泥除未製品（阿方ほか）、横槌（阿方）等が出土している。また奈良時代から中世では木錘（久米窪田Ⅱ）、鋤・鍬類（八町3号）等が見つかっている。建築材では、弥生後期の柱類や礎板（釜ノ口7次、8次）。古墳中期の板材（船ヶ谷2次、4次）や七世紀中頃～八世紀の杭（久米窪田森元3次）。中世の建築部品（太田城跡）や中世以後の杭（来住廃寺18次）等に使用されている。アカガシ亜属は、きわめて硬く弾力性があり水湿にも強い。そのような特徴からとりわけ鋤・鍬類に多く用いられたと考えられる。

⑩ヤマグワ（クワ）は、阿方遺跡で弥生前期の腕輪、櫛、刳物の高杯、弥生

中期の短甲が見つかっている他、弥生中期～古墳後期の杭、柱類（桑原5次、新谷森ノ前）の出土例がある。

⑪クスノキは、縄文晩期の祭祀具として船ヶ谷遺跡での使用が認められる。弥生から古墳時代にかけては、弥生前期の泥除未製品（新谷森ノ前）をはじめ、阿方遺跡や矢田八反坪遺跡など主に今治地方で遺物が見つかっている。中世のものは平田七反地遺跡から一四世紀の井戸枠が検出されている。

⑫ツバキ属は、弥生中期の柄（阿方）をはじめ、縄文後期～古墳後期の木錘（矢田八反坪）、八世紀の木錘（久米窪田森元3次）等の使用例が確認できる。また、杭材としても利用されている（久米窪田森元3次、来住廃寺18次）。

⑬サカキ属は、縄文晩期の不明品（船ヶ谷）や八世紀の建築部品（久米窪田森元3次）のほか、弥生後期の炭化材（東本4次）も見つかっている。

⑭ツゲは、奈良時代頃の久米窪田Ⅱ遺跡や前川Ⅰ遺跡で出土しており、いずれも櫛材として使用されている。

⑮サクラ属は、弥生中期の杭材（阿方）、弥生後期の柱類（釜ノ口8次）、中世以後の杭（来住廃寺18次）等の出土例がある。

⑯シイノキ属は、弥生前期の鋤・鍬類（阿方）、縄文後期～古墳後期の柄、鞍（矢田八反坪）、弥生後期の礎板（釜ノ口8次）、古墳中期の板材（船ヶ谷4次）、中世以後の杭（来住廃寺18次）等の出土例がある。

⑰アオキは、縄文晩期のつまみ状木器（船ヶ谷）、縄文後期～古墳後期の木針（矢田八反坪）、弥生中期の柄（阿方）等の出土例がある。

以上の結果から、特定の器種と結びつくものをまとめると次のようになる。

（Ⅰ）高木では、スギ、ヒノキ、マツ属、モミ属、カヤ、コウヤマキという針葉樹と、アカガシ亜属、シイノキ属、コナラ亜属という広葉樹の木材利用が多い。とくに建築（土木）用材の場合、おおまかな傾向として弥生時代には、松山ではアカガシ亜属、今治ではクリといったブナ科の広葉樹が主に用いられているのに対し、古墳時代以降、松山ではヒノキ、今治ではモミ等の針葉樹材の使用割合が増えている。アカガシ亜属やクリといった広葉樹は、極めて丈夫で直線的な太い材になることが、縄文時代からその堅果を食用としていた人々にとって、自然に建築（土木）用材に利用するようになったのであろう。しかし、時期が下るにつれて、同じ丈夫であるという条件を満たしつつも、より軽くて運搬しやすく、安定して供給量を確保できるというようなことから、針葉樹材の割合が増えていったと考えられる。

（Ⅱ）鋤・鍬類は弥生時代から古墳時代にかけて一〇〇％近くアカガシ亜属の樹種が使用されていた。鋤・鍬類には硬くて強靭なアカガシ亜属をあえて選択して利用していたと考えられる。

（Ⅲ）古墳時代以降、針葉樹材使用の普及拡大が認められる。とくに古代から中世にかけての斎串、人形代といった祭祀具や、曲物の容器にはスギやヒノキが利用されている。これらの遺物は薄く板状を呈するものが多く、割裂や加工が容易な針葉樹からスギやヒノキを選択したものと考えられる。

（Ⅳ）下駄は、七世紀中頃～八世紀頃の時期に使用が始まっている。県内出土の下駄は、全て一木で作る連歯下駄であり、太田城跡でキリ製のものが見つかっている以外は、スギとヒノキが使用されている。また下駄とは異なるが、今治市糸大谷遺跡で、七世紀前後の田下駄が報告されており、これも針葉樹製とされている。

三　植生との関連について

前章でみた木製遺物における木材利用傾向の要因の一つに、その地域で生育する植物の相違が考えられる。とくに東西に長い海岸線を持ち、しかも海岸から西日本最高峰の石鎚山までの標高差が著しい愛媛県は、地形も複雑で、気候の違いも大きい。このような気候の相違はその地域に生息する植物にも大きく影響を及ぼし、南予の海岸沿いの亜熱帯的な植物群から石鎚山系の亜寒帯植生まで、多様な森林植生がみられる。このような愛媛県下の植生については、森川国康氏らにより、標高により五つないしは六つの森林帯に分類されることが報告されている。(4)

愛媛県内の平野部全域とおよそ標高八〇〇m以下の山地は、照葉樹林帯またはシイ・カシ帯と呼ばれる地域で、自然状態ではアラカシ・イチイガシ・ウラジロガシ・アカガシなどのカシ類と、シイノキ・クスノキ・タブノキ・ホルトノキなどの常緑広葉樹が優占する。中でも、標高が五〇〇m以下の山地は、もともとシイ・カシ類、ヤブツバキなど、常緑広葉樹が優占する照葉樹林地域であった。ところが、瀬戸内海の沿岸や島嶼部の花崗岩地帯など土壌のやせた地域や岩石地では土地的要因が強くはたらくため、同じ気候帯でもマツ属が繁殖し、それが薪炭林や生活林として拡大してきたと思われる。標高五〇〇m以上では、ウラジロガシや落葉樹のモミジの仲間などが優占し、石鎚山の中腹や小田深山などでは、カシ類の分布上限である標高八〇〇mあたりから一二〇〇mにかけて、モミ・ツガ群集の中間温帯林が発達している。標高一〇〇〇mから一七〇〇mの山地では、ブナが優占し、ミズナラ、リョウブなど冷温帯の落葉広葉樹林が目立つ。また、石鎚山脈、赤石山脈、四国カルストなどの標高一三〇〇mから一七〇〇mの地域にはウラジロモミ林の発達をみるところが多い。しかし、緯度の低い篠山では、ブナもウラジロモミもない。標高が、ほぼ一七〇〇m以上に達するとシラベの優占する針葉樹林帯であり、ダケカンバ林もよく発達する。

つまり、これらを簡略化してまとめるとこのようになる。

標高〇～五〇〇m　　シイ・カシ林域（暖温帯）
標高五〇〇～一〇〇〇m　　モミ・カシ林域
標高八〇〇～一二〇〇m　　モミ・ツガ林域（中間温帯）
標高一〇〇〇～一七〇〇m　　ブナ林域（冷温帯）
標高一七〇〇m以上　　シラベ林域（亜寒帯）

このような植生をふまえた上で、次に、過去の植生を知る上で重要な手がかりとなる遺跡から出土した自然木や炭化材をみていきたいと思う。ただ、愛媛県下の場合、出土事例が限られているので、ここでは松山平野周辺地域を検討していきたい。

この地域では、縄文晩期のものとして、クリの炭化材が見つかっている。クリの実は、縄文時代には食料資源として利用されていた。しかし、稲作の導入により、人々の食料資源として穀類の役割が増していくと、堅果の需用は少なくなっていく。それに伴い、クリ材の木製品への利用も減っていったと思われる。

弥生中期には、シイノキ属やクスノキ科の炭化材、クヌギやアラカシのほか、ヒノキ、ツガ等の常緑針葉高木も見つかっている。これらのことから、暖温帯から中間温帯に分布する落葉・常緑広葉樹林のほか、平地針葉樹林の存在もうかがえる。

弥生後期は、暖温帯から中間温帯に分布する落葉樹・常緑樹・針葉樹の高木がある点は、中期とあまり変化がないが、それに加え、ヒサカキやヤマウルシ等の小高木類も見うけられる。また、注目すべきは、アカマツの出現である。愛媛県下の平野部は、本来、照葉樹林帯であるが、人口が増え、生産が進むほど、周辺の森林が略奪され、地力は衰え、やせ地に耐え得る植生に変わって行く。土地がやせ、今までの樹木が衰えるほど、それまで尾根筋などで耐えてきたマツが進出してくる。おおむねこうした経過で、各地にマツ林が誕生し、各時期にわたって継続的に薪炭材等として用いられるようになる。

マツ属以外には、古墳時代にクヌギ節の炭化材やヤナギ属、古代には、ヒノキやサクラ、中世にはカバノキ科クマシデ属の炭化材が報告されている。

以上のことから、自然木においては、常緑広葉樹は、シイノキ属、クスノキ科、アラカシ。落葉広葉樹は、クリ、クヌギ、ヤナギ属、サクラ、カバノキ科クマシデ属が認められた。また、針葉樹は、弥生後期以降、各時代を通じてみられるマツ属のほか、ツガやヒノキがみられたが、多くの製品で使用されていたスギや、大型の建築材等でよく使用されたモミは見られなかった。このことから、スギやモミは、製品に利用する際、集落の近隣ではなく、やや離れた丘陵地や山地から搬入してきた可能性が考えられる。ちなみに、四国山地に囲まれている旧上浮穴郡小田町の太田城跡では、ヒノキよりスギの方が多く出土している。一方、スギと同様、針葉樹材において多用されているヒノキの場合は、弥生中期から集落の近隣に存在していたことが想定される。

四　まとめにかえて

建築（土木）用材の場合、おおまかな傾向として弥生時代には、広葉樹が主に用いられているのに対し、古墳時代以降、針葉樹の使用割合が増えている。これを、地域植生と考え合わせれば、時代が下るに連れ、スギをより広範囲の地域から確保しはじめるとともに、ヒノキの需用を拡大していった様子がうかがえる。そして、それに反するように、クリ、サクラ等広葉樹の使用は減少している。この傾向は容器でもうかがえる。弥生前期の阿方遺跡で、クワ（ヤマグワ）を使用した刳物の高杯が出土しているが、それ以降の刳物容器には全てヒノキが使用されている。また、八世紀前後からはヒノキの曲物容器、一三世紀頃からはスギの曲物容器が登場し、刳物容器自体が姿を消していくようになる。このような広葉樹材利用から針葉樹材利用へと遷移していく一方、全くこの流れにあてはまらない器種もある。例えば、鋤・鍬類では、針葉樹は全く使用されず、若干の広葉樹を除き、一貫してアカガシ亜属が使用されている。また、紡織具である木錘には、ヒノキ、カシ、ツバキが認められている。ツバキ属の木は、枝振りが一定ではなく、材を長く取る事は難しいが、硬くて重い特徴がある。弥生時代から古墳時代にかけて、針葉樹の使用が拡大しつつも、それを全てにおいて適用するわけではなく、各木製品の役割に適した材を、周辺地域から選択していた様子がうかがえる。

次に、主に古墳時代から中世にかけてみられる斎串、人形代といった祭祀具や曲物容器、櫛、下駄などの木製品についてであるが、これらのうち、前二種については一〇〇％スギ・ヒノキ材が利用されている。しかし、下駄にはキリ、櫛にはツゲといった古墳時代以前には全く見られなかった材が用いられているのが特徴的である。このような現象は、古い時期のように周辺から適材を選択し使用したというよりは、社会の発達による木材の流通の中で生じてきたものと思われる。

今回の調査では、既報告のデータを整理し、おおまかに器種別あるいは時期別における用材傾向を明らかにすることができた。しかし、比較検討した遺跡数は四一と限られており、流通の変遷や地域的な特徴を述べるにはさらに資料を増やすことが必要である。今後は、未調査・未報告の木製遺物の樹種同定を行い、より詳細にそれらの点を検討していきたい。

註

(1) 木製遺物を報告した文献は、発掘調査報告書、都道府県史や市町村史、各種の論文や資料紹介、資料集成など多種多用にわたるが、代表的なものとして、日本列島全域の木製品や加工材などの資料を集成した元興寺仏教民俗資料研究所『出土木製遺物の実態調査報告書』（一九七六、一九七七、一九七八）、近畿地方を対象とした奈良国立文化財研究所『木器集成図録』（一九八五、一九九二）、樹種別の用材傾向を総合的にまとめた島地謙・伊東隆夫編『日本の遺跡出土木製品総覧』雄山閣（一九八八）などがある。

(2) 『釜ノ口遺跡Ⅱ―6・7・8次調査―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九七年ほか、発掘調査報告書に随時まとめたもの。

(3) 調査した文献は、出土遺構や年代が明らかでないものも含め、文末に年代順に参考文献としてまとめた。

(4) 『愛媛県史』地誌Ⅰ（総論）該当部分。その中の「現存植生と植生自然度」の項目は、森川国康氏の報告による。その他、得居修「森林の植物」（『愛媛県の歴史と風土』一九八二所収）、山本四郎『愛媛の植物記　改訂版』（一九九一）を参照した。

参考文献

(1) 西田栄「道後土居窪弥生遺跡の発掘略報」『伊予史談』一五〇号　一九五八
(2) 古照遺跡調査団『古照遺跡』松山市教育委員会　一九七四
(3) 森光晴・大山正風『古照遺跡Ⅱ』松山市教育委員会　一九七六
(4) 犬飼徹夫・阪本安光『吉田町国安川遺跡埋蔵文化財調査報告書』吉田町教育委員会　一九八〇
(5) 河野藤吉・長井數秋・阪本安光『一般国道一一号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書Ⅰ』愛媛県教育委員会・㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　一九八一
(6) 吉本拡・阪本安光他『一般国道一一号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』愛媛県教育委員会・㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　一九八一
(7) 豊田達雄・横山賢他『一般国道一一号松山東道路関係遺跡埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　一九八二
(8) 阪本安光・佐々木正興・守田五男『伊予国府跡確認調査概報（Ⅱ）』愛媛県教育委員会　一九八二

(9) 森光晴他『国道一一号バイパス埋蔵文化財発掘調査報告書　福音寺遺跡（竹ノ下・川付・筋違）　星ノ岡遺跡（旗立・北下）　北久米遺跡（常堰・乃万の裏・農免）』　松山市教育委員会　一九八四
(10) 長井數秋他『大見遺跡　大三島町大見遺跡発掘調査報告書』　大三島町教育委員会　一九八五
(11) 阪本安光他『松山市・船ヶ谷遺跡　愛媛県青果農業協同組合連合会関連埋蔵文化財調査報告書』愛媛県教育委員会　一九八五
(12) 大滝雅嗣『宮前川遺跡　中小河川改修事業埋蔵文化財調査報告書』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　一九八六
(13) 大滝雅嗣他『一般国道一九六号今治道路埋蔵文化財調査報告書Ⅱ　八町遺跡　中寺州尾遺跡　松木遺跡』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　一九八九
(14) 梅木謙一『松山市道後城北遺跡群　祝谷アイリ遺跡』㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九二
(15) 梅木謙一・宮内慎一他『山越・久万ノ台の遺跡』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九三
(16) 西尾幸則他『来住廃寺遺跡―第15次調査―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九三
(17) 栗田正芳・河野史知他『古照遺跡―第6次調査―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九三
(18) 岡田敏彦他『一般国道一九六号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅰ　松環古照遺跡』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　一九九三
(19) 柴田昌児・相原清志『多々羅大橋関連埋蔵文化財発掘調査報告書　多々羅製塩遺跡』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　一九九四
(20) 栗田正芳『古照遺跡―第7次調査―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九四
(21) 西尾幸則他『来住・久米地区の遺跡Ⅱ　来住廃寺18・20次　久米窪田森元3次』　松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九四
(22) 栗田正芳他『桑原地区の遺跡Ⅱ　樽味高木2・3次　樽味四反地2・3・4次　桑原田中2次』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九四
(23) 小田町文化財保護委員会『太田城跡―発掘調査報告書―』小田町教育委員会　一九九五
(24) 栗田正芳・小笠原善治・河野史知『古照遺跡―第10・11次調査―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九五
(25) 相原浩二・河野史知『辻町遺跡―2次調査地―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九五
(26) 岡田敏彦『一般国道一九六号松山環状線埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ　親和園前地区（伝旧松山藩陣屋跡・朝美澤遺跡・朝美澤廃寺）、美沢地区（美沢遺跡）、衣山地区（衣山遺跡）』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　一九九六
(27) 谷若倫郎他『来島大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告書第2集　糸大谷遺跡』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　一九九六
(28) 栗田正芳『古照遺跡―第8・9次調査―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九六
(29) 高尾和長他『東本遺跡4次調査・枝松遺跡4次調査』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九六
(30) 長井數秋・西岡信次『松前町横田遺跡Ⅱ区調査報告書』松前町教育委員会　一九九六
(31) 梅木謙一『中村松田遺跡』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九七
(32) 高尾和長他『釜ノ口遺跡Ⅱ―6・7・8次調査―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九七
(33) 森光晴『旧等妙寺跡発掘調査概要報告書』広見町教育委員会　一九九七
(34) 高尾和長他『大峰ヶ台遺跡Ⅱ―9次調査―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九八
(35) 梅木謙一他『松山大学構内遺跡Ⅲ―第4・5次調査―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九八
(36) 相原浩二他『瀬戸風峠遺跡』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九八
(37) 作田一耕他『斎院・古照　新松山空港道路建設に伴う埋蔵文化財調査報告書』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　一九九八
(38) 廣田秀久・田坂嘉則・藤村啓修『矢田西之窪遺跡・高市徳森遺跡』今治市教育委員会　一九九八
(39) 窪田賢治・原畑静佳・柴田昌児『一般国道一九六号今治バイパス埋蔵文化財調査報告書Ⅲ　登畑遺跡』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　一九九八
(40) 高尾和長他『船ヶ谷遺跡―2次調査―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九九
(41) 宮内慎一・相原秀仁『岩崎遺跡』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九九
(42) 加島次郎他『船ヶ谷遺跡―3次調査地―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　一九九九
(43) 櫛部大作『石井国友遺跡　―第1次調査区―　―第2次調査区―　―第3次調査区―　―第4次調査区―』今治市教育委員会　一九九九
(44) 岡田敏彦・谷若倫郎他『鹿の子古墳群　新谷森ノ前遺跡　県道今治丹原線の建設に伴う埋蔵文化財調査報告書第2集』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　一九九九

(45) 谷若倫郎・楠真依子・真鍋昭文『来島海峡大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告書第４集　馬島亀ヶ浦遺跡　馬島ハゼヶ浦遺跡』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　一九九九
(46) 長井數秋『新池遺跡・小池遺跡　国営道前道後平野農業水利事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』東予市教育委員会　一九九九
(47) 真鍋昭文他『来島大橋建設に伴う埋蔵文化財調査報告書第６集　阿方遺跡・矢田八反坪遺跡』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　二〇〇〇
(48) 多田仁他『南高井遺跡・森松遺跡―四国縦貫自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告書Ⅹ―松山市編Ⅱ―』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　二〇〇〇
(49) 西川真美他『道ヶ谷古墳　池の奥遺跡　平田七反地遺跡　一般国道一九六号松山北条バイパス埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　二〇〇〇
(50) 梅木謙一他『斎院の遺跡Ⅱ　鳥越・津田中学校内・北斎院地内』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　二〇〇一
(51) 山之内志郎『小野地区の遺跡　北梅本悪社谷遺跡２次調査地、北梅本北池遺跡、北梅本太尺寺遺跡』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　二〇〇一
(52) 目見田周治・作田一耕・川田秀治『貝田廃寺跡　市道楠浜北条線道路改良工事に伴う貝田廃寺跡埋蔵文化財調査』東予市教育委員会　二〇〇一
(53) 高尾和長『樽味四反地遺跡―５次調査―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　二〇〇二
(54) 高尾和長・山之内志郎他『船ヶ谷遺跡―４次調査―』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　二〇〇二
(55) 真鍋昭文『土居窪遺跡２次　祝谷畑中遺跡　祝谷本村遺跡２次　都市計画道路道後祝谷線整備事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　二〇〇二
(56) 長井數秋『願連寺泉遺跡　―町道周布・吉岡線道路改良工事発掘調査報告書』丹原町教育委員会　二〇〇二
(57) 長井數秋『松前町横田遺跡Ⅳ区調査報告書』松前町教育委員会　二〇〇三
(58) 吉岡和哉『桑原遺跡５次調査地』松山市教育委員会・㈶松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター　二〇〇四
(59) 中野良一・吉野加枝美・北山育美・藤本清志・松本佳子『南斎院土居北遺跡・南江戸鬮目遺跡（２次調査）―宮前川広域基幹河川改修事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　二〇〇四
(60) 三好裕之・今泉ゆかり・岡美奈子『善応寺畦地遺跡　大相院遺跡　別府遺跡―一般県道湯山高縄北条線道路改良工事に伴う埋蔵文化財調査報告書』㈶愛媛県埋蔵文化財調査センター　二〇〇四

表　愛媛県内出土木製遺物の用材

（　）内は点数

種　類	器　種	時　期	遺跡名	針葉樹						広葉樹				
				スギ科	ヒノキ科	マツ科			その他の科	ブナ科				その他の科
						マツ属	モミ属	ツガ属		コナラ亜属	アカガシ亜属	シイノキ属	その他の属	
建築（土木）用材	建築部材	弥生前	阿方		ヒノキ（1）								クリ(1)	
		弥生前？	古照８次											サカキ(1)
	杭材	弥生中	阿方										クリ(1)	
														サクラ(1)
			古照８次											タイミンタチバナ(1)
	柱類	弥生後	釜ノ口７次								アカガシ亜属(4)			モチノキ属(2)
	礎板										アカガシ亜属(3)			
	柱類		釜ノ口８次								アカガシ亜属(3)			シャシャンボ(1) サクラ属(1)
	礎板											スダジイ(1)		
	板材	弥生前～古墳後	船ヶ谷４次		ヒノキ科(1)				コウヤマキ(1)					
	杭材				ヒノキ科(1)									
					ヒノキ(1)									
	柱類	弥生中～古墳	矢田八反坪											タブノキ（2） アオギリ（1）
	杭？	弥生中～古墳後	桑原５次			マツ属(2)								ヤマグワ(1)
	板材			スギ(1)	ヒノキ(1)		モミ属(2)							
	杭材	弥生後～古墳中	古照８次							コナラ節(1)				
	板材				ヒノキ属(1)									
	柱類	弥生末～古墳前	新谷森ノ前											クワ(1)
		古墳前	船ヶ谷４次						カヤ(2)					
	杭材	古墳中	船ヶ谷２次				モミ属(1)							
	板材										アカガシ亜属(1)			
	礎板（根）					マツ属(1)								
	板材		船ヶ谷４次								アカガシ亜属(1)	シイノキ属(1)		クスノキ(1)
	杭材				ヒノキ(2)									
	杭				ヒノキ(6) ヒノキ科(4)	マツ属(1)			コウヤマキ(2) カヤ(1)					アワブキ属(1)
	柱	古墳後							カヤ(3)	コナラ亜属(1)				
	板戸		中寺州尾				モミ(1)							
	柱類						モミ(1)							
	杭？	７Ｃ中～８Ｃ	久米窪田森元３次								アカガシ亜属(1)			
	杭	８Ｃ				マツ属(1)								ヤブツバキ(1) ウツギ属(1)
	部品			スギ(1)	ヒノキ(1)									サカキ(1)
	杭	10Ｃ末～11Ｃ初	桑原５次											ノグルミ(1)

建築（土木）用材	柱材	12C後～13C前	古照８次		ヒノキ科(1)	マツ属(1)								
	角材？				ヒノキ(1)									
	板材			スギ(1)										
	杭									コナラ(1)				
	角材	中世	太田城跡	スギ(4)										
	柱類			スギ(1)										
	部品			スギ(6)							カシ(1)			
	底樋	中世	旧等妙寺跡			マツ(3)								
	杭	中世以後	来住廃寺 18 次			マツ属(10)					アカガシ亜属(1)	スダジイ(3)	ブナ属(1)	アサダ(1) ヤナギ属(1) ヤブツバキ(2) サクラ属(2) ヒサカキ属(1) シロダモ(3)
	井戸枠	14 C	平田七反地											クスノキ（1）
			八町１号				モミ(2)							
	杭材	近世											クリ（1）	
農工具	鋤・鍬類	弥生前	松木								カシ（1）			
			阿方								アカガシ(11)	シイ(1)		
			新谷森ノ前								アカガシ(4)			
			山越２次								カシ（1）			
		弥生中	土居窪								カシ（1）			
			阿方								アカガシ(6)			
		弥生中～古墳	矢田八反坪								アカガシ(1)			
		弥生後	中寺州尾								カシ（3）			
		弥生後～古墳初	船ヶ谷４次								アカガシ亜属(2)			
		古墳前	宮前川北斎院津田Ⅱ								カシ（1）			
		古墳中	福音寺竹の下								カシ（6）			
		縄文後～古墳後	矢田八反坪								アカガシ(7)			
		中世	八町３号								カシ（2）			
	竪杵	縄文後～古墳後	矢田八反坪							クヌギ(1)	アカガシ(1)			
		弥生前	阿方								アカガシ(2)			
	泥除未製品	弥生前	阿方								アカガシ(1)			
			新谷森ノ前											クスノキ（3）
		弥生後	船ヶ谷４次								アカガシ亜属(1)			
	牛の鼻木通し	中世	太田城跡								カシ（2）			
	柄	縄文後～古墳後	矢田八反坪								アカガシ(2)	シイ(2)		
		弥生中	阿方											アオキ(1) ツバキ(1)
	斧柄	弥生中	阿方								アカガシ(1)			
	柄	古墳中	福音寺竹の下								カシ（2）			
	あて道具	奈良	久米窪田Ⅱ			アカマツ(1)								
	叩き板			スギ(1)										
	漆べら	中世	太田城跡											タケ（1）

祭祀具	動物形	縄文晩	船ヶ谷											クスノキ（4）
	黒漆塗	弥生中	阿方								アカガシ（2）			
	斎串	古墳前～古墳後	桑原５次		ヒノキ（1）									
		７Ｃ中～８Ｃ	久米窪田森元３次		ヒノキ（1）									
	木簡類	奈良	久米窪田Ⅱ	スギ（1）	ヒノキ（7）									
	人形代	８Ｃ			ヒノキ（4）									
	斎串		久米窪田森元３次		ヒノキ（1）									
	人形代	９Ｃ	久米窪田Ⅱ		ヒノキ（1）									
		古代	前川Ⅰ		ヒノキ（2）									
	削りかけ				ヒノキ（1）									
	木簡類	15Ｃ初	平田七反地		ヒノキ（2）									
	えぼし形	中世	太田城跡	スギ（2）										
装身具	腕輪	弥生前	阿方											クワ（1）
	櫛													クワ（1）
		奈良	久米窪田Ⅱ											ツゲ（1）
		古代	前川Ⅰ											ツゲ（1）
履物	下駄	７Ｃ中～８Ｃ	久米窪田森元３次		ヒノキ（1）									
	下駄？	８Ｃ			ヒノキ（2）									
	下駄	13～15Ｃ	八町１号	スギ（1）										
		中世	太田城跡	スギ（7）										キリ（2）
紡織具	木針	縄文後～古墳後	矢田八反坪											アオキ（1）
	木錘													ツバキ（1）
	横槌	弥生中	阿方								アカガシ（1）			
	木錘	古墳前～古墳後	桑原５次		ヒノキ（1）									
		古墳	来住廃寺 18 次		ヒノキ科（1）									
	つちのこ	奈良	久米窪田Ⅱ								カシ（3）			
	木錘	８Ｃ	久米窪田森元３次											ヤブツバキ（2）
	紡錘車	近世	馬島亀ヶ浦								カシ（1）？			
食膳具	匙	縄文後～古墳後	矢田八反坪						イヌガヤ（1）					
	縦杓子													タブノキ（1）
	匙形	８Ｃ	久米窪田森元３次		ヒノキ（1）									
	しゃもじ形	中世	太田城跡		ヒノキ（1）									
	箸	近世	馬島亀ヶ浦						針葉樹（3）					タケ（1）
馬具	鞍	縄文後～古墳後	矢田八反坪									シイ（1）		
刳物		縄文後～古墳後	矢田八反坪						カヤ（1）					
	高杯	弥生前	阿方											クワ（1）
	槽形木製品	古墳前	多々羅		ヒノキ（1）									
		古代～中世	石井国友２次		ヒノキ（1）									
編物	かごめ	弥生中	阿方											タケ（1）
曲物	チップ	古代	前川Ⅰ		ヒノキ（2）									
	底板	７Ｃ中～８Ｃ	久米窪田森元３次		ヒノキ（1）									
	底板、側板	８Ｃ			ヒノキ（4）									

曲物？	蓋板	13～15C	八町１号	スギ(2)	ヒノキ(1)									
曲物	井戸枠	14 C	船ヶ谷３次	スギ(2)	ヒノキ(1)									
	底板	中世	太田城跡	スギ(11)	ヒノキ(1)									
指物	置物の脚				ヒノキ(1)									
文具	筆軸	中世	太田城跡											タケ(1)
	押し糊べら													タケ(1)
武具	弓	縄文後～古墳後	矢田八反坪						イヌガヤ(1)		アカガシ(2)			
		弥生中	阿方						カヤ(1) イヌマキ(1)					
	短甲													クワ(4)
用途不明		縄文後～古墳後	矢田八反坪		ヒノキ（3）				コウヤマキ(1)	クヌギ(1)	アカガシ(11)			ツバキ（2） クスノキ（3） ムラサキシキブ(1) アオキ(1) ムクロジ(1)
	未製品										アカガシ(2)			
	輪状	縄文晩	船ヶ谷											クスノキ（5） ケンポナシ（1）
	つまみ状													アオキ（1）
	板状													クスノキ（1） サカキ（1）
														クスノキ（4）
		弥生前	阿方		ヒノキ（1）						アカガシ(1)			クスノキ（1） クワ（1）
	未製品										アカガシ(3)			クスノキ（1）
		弥生中	阿方		クロベ(1) ヒノキ（1）						アカガシ(2)	シイ(1)		サクラ（1） サカキ(2)
	未製品										アカガシ(2)			サクラ（1）
			平井								アカガシ亜属(1)			
		弥生	来住Ｉ	スギ(1)										
		弥生中～古墳	矢田八反坪								アカガシ(1)			
	未製品				ヒノキ（1）									
	棒状	弥生中～古墳後	桑原５次		ヒノキ(1)				コウヤマキ(1)					
	加工材				ヒノキ（1）									センダン（1）
	用途不明	古墳	来住廃寺 18 次		ヒノキ（1）									
	加工材	古墳前～古墳後	桑原５次		ヒノキ（1）	マツ属(1)							クリ(1)	
		7C 中～８C	久米窪田森元３次		ヒノキ(3)									
		８C			ヒノキ(18)		モミ属(1)		カヤ(1)					ウツギ属(1)
	円盤状	古代末～中世後	桑原５次					ツガ属(1)						
		中世	来住廃寺 18 次		ヒノキ（1）									
	棒状		太田城跡								カシ（7）			
	板状			スギ(11)										

自然木	炭化材	縄文晩	松山大学構内５次										クリ(1)	
		弥生前～中	岩崎											サクラ属（1）
		弥生中	平井		ヒノキ(1)			ツガ(1)		クヌギ(1)	アラカシ(2)			
	炭化材		樽味高木２次						針葉樹(1)			シイノキ属(1)		クスノキ科(1)
		弥生後	中村松田		ヒノキ(1)	アカマツ(1)								ニレ属(2)
	炭化材	弥生後	東本４次									スダジイ(4) シイノキ属(2)		モチノキ属(2) サカキ(3) ヒサカキ属(1) ヤマウルシ(3)
		古墳前	多々羅			マツ属(11)								
	埋没樹木	古墳	森松											ヤナギ属（1）
	炭化材	古墳	瀬戸風峠４号墳							クヌギ節(3)				
		古墳	瀬戸風峠５号墳			マツ属(2)								
		古墳末	大池東１号墳						針葉樹(1)					
		８Ｃ	北梅本悪社谷２次			マツ属(5)								
	薪	古代	前川Ｉ		ヒノキ(1)									サクラ（1）
	炭化材	13Ｃ	岩崎											クマシデ属（1）
		14～15Ｃ				マツ属(1)								